

(様式 1)

ながのまちづくり活動公開審査申込書

申込年月日	平成 25 年 2 月 1 日	受付番号	10
活動部門・コース	1 企画・研究部門	2 実践活動部門	① ホップコース(スタート枠) ② ホップコース ③ ステップコース ④ ジャンプコース
団体の名称	(フリガナ)カワナカジマタイラハイカイケンキュウカイ		
	川中島平俳諧研究会		
団体の所在地			
代表者	(フリガナ)タケムラ マサオ		
	氏名 竹村 昌男		
連絡先 (連絡責任者)			
団体の設立年月日	平成 22 年 2 月 1 日		
団体の 設立目的	川中島平一帯の江戸時代以後における俳諧の状況を調査し、資料としてまとめる。資料にもとづき、現在の寺社、お堂、公民館等に掲げてある俳額と句碑の内容を明らかにし、説明板等を作成する。また、これらの内容をHPに掲載する。住民に文化的遺産の重要性を理解するため見学や講演をおこない地域住民が参加し、街の活性化をはかる活動にする。		

<p>団体の 活動実績 平成 24 年度</p>	<p>第 1 回研究会 4/15 23 年度の活動報告、反省、組織・役員選出。24 年度の 研修計画承認。俳額解読、松代東条大日堂の俳額。 第 2 回研究会 5/13 会員の組織分担の決定、篠ノ井東福寺視察について。 俳額解読、松代東条大日堂。清野清水庵地藏堂。 視察 1 回 5/20 篠ノ井東福寺横田の句碑、俳額めぐり。 視察 2 回 6/10 松代岩野地区の句碑、俳額めぐり。案内板建立披露を含む。 第 3 回研究会 6/17 各委員会からの報告、研究誌編集委員会、案内板建立 委員会、HP 編集委員会。俳額解読の分担決定。俳額解読 清野清水庵。 第 4 回研究会 7/15 各委員会より報告。俳額解読 川中島今井神社 視察第 3 回 7/22 篠ノ井長谷寺句碑、俳額めぐり。案内板建立披露を含む。 第 5 回研究会 8/25 各委員会より報告。俳額解読 松代西条欠諏訪神社 第 6 回研究会 9/9 各委員会より報告。俳額解読 松代中条埴科神社 第 7 回研究会 9/30 各委員会より報告。俳額解読 松代中条埴科神社 視察第 4 回 10/13 若穂保科句碑・俳額めぐり。 第 8 回研究会 10/20 各委員会より報告。俳額解読 真島清水神社 第 9 回研究会 11/11 各委員会より報告。俳額解読 真島清水神社 視察第 5 回 11/18 姨捨句碑・俳額めぐり。長野市出身者の句碑を重点的に 行う（縁故者の参加と解説）。なお、下見を 11/6 会員でおこなう。 第 10 回研究会 12/2 各委員会より報告。俳額解読 真島清水神社 第 11 回研究会 12/16 各委員会より報告。俳額解読 松代豊栄皆神神社 第 12 回研究会 1/13 各委員会より報告。俳額解読 松代豊栄皆神神社 第 13 回研究会 1/20 各委員会より報告。俳額解読 松代豊栄皆神神社 第 14 回研究会 1/27 各委員会より報告。俳額解読 松代豊栄皆神神社 予定 第 15 回研究会 2/3 各委員会より報告。俳額解読 川中島南原世茂 井神社 予定 第 16 回研究会 2/10 各委員会より報告。俳額解読 若穂、保科 予定 第 17 回研究会 2/17 各委員会より報告。俳額解読 若穂、保科 予定 第 18 回研究会 3/31 講演と発表会 24 年度案内板の設置 松代、東福寺、篠ノ井会（2 月～3 月） 『研究会誌Ⅲ』発刊、関係先配布、販売 賛助会員 13 名加入</p>
<p>構成員（会員）数</p>	<p>14 名</p>
<p>応募する 活動のタイトル</p>	<p>川中島平の江戸時代以後における俳諧(俳額と句碑の解読等)の資料調査と 住民の参加</p>
<p>応募する活動の 目的及び達成目標</p>	<p>現在の地域や社会の問題・課題と応募する活動の目的 長野市南部地域の江戸時代以後の俳諧活動状況を調査し冊子としてまとめる。調査資料からデータベース化を行い、資料を蓄積する。調査にもとづき句碑・俳額所在地のマップを作成する。また説明板を立てる。HP により調査内容を検索することができるようにする。さらに地域の人々とともに視察見学を行い、認識を新たにす。より多くの住民の参加と普及をはかるため一層の PR と宣伝を強化する。 応募年度の達成目標 俳人の業績を調査し先達の人物伝、年表の作成、分布表の作成、案内板</p>

		の作成、冊子の作成、HP の入力、ブログの作成、住民参加による実地研修、講演をおこなう。(5 回開催各 30 名参加)
応募する活動の 具体的内容		<p>※実施項目、場所、対象者など</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現在までの俳諧に関係する句会の本および資料の収集を年表にまとめる。 2 川中島平の未調査句碑約 30、俳額約 40 の視察調査および発句者の住所・氏名・職業・墓所の調査 (年 5 回 100 名参加) 3 句碑、俳額の撮影をおこない記録にまとめ、データベース化をはかる。 4 視察の句碑、俳額めぐりにおける参加者に参加目的などの聞き取り調査をおこない、今後の参考にする。(年 5 回 60 名) 5 研究会を毎月おこない調査・研究の考察と進捗状況、および俳額の解説をおこなう。(年 15 回) 6 視察の句碑、俳額めぐりの事前調査、案内板の説明等の交渉および研究会の資料作成の準備に出向く。 7 各自治協 (篠ノ井、松代、若穂、更北、川中島) および各公民館とも連携し視察の句碑、俳額めぐりの参加者をつのる。 8 賛助会員との連携を密にし、視察の句碑、俳額めぐりに参加してもらう。 9 調査研究の冊子を発刊し、地域の人々に購入。および書店等に販売。 10 句碑、俳額の案内板を設置し、地域の人々の関心、およびHP に参入。 11 公式ブログを作成し、視察の句碑、俳額めぐりへの参加および冊子の購入をおこなう。
年 間 計 画	4 月	年間計画の策定 (未調査分、未解説分)、組織の確定、 第 1 回研究会 会員による冊子の販売、書店等への冊子の委託販売、賛助会員の募集
	5 月	各委員会の打合せ会 研究会誌編集委員会、案内板委員会、HP 検討委員会 俳額解説の分担 (昨年度未解説分) 俳額解説 第 2 回研究会 視察 1 回 視察の句碑、俳額めぐり (松代) 準備調査の日程、住民参加の ための広告等、賛助会員への通知 研究会、視察とも日曜日とする
	6 月	各委員会の報告、資料収集、俳額解説、第 2 回視察の計画 第 3 回研究会 会員による冊子の販売、賛助会員の募集
	7 月	各委員会の報告、資料収集、俳額解説、 第 4 回研究会 視察 2 回 視察の句碑、俳額めぐり (篠ノ井) 準備調査の日程、住民参加 のための広告等、賛助会員への通知
	8 月	各委員会の報告、資料収集、俳額解説、第 3 回視察の計画 第 5 回研究会 会員による冊子の販売、賛助会員の募集
	9 月	各委員会の報告、資料収集、俳額解説、 第 6 回研究会 視察 3 回 視察の句碑、俳額めぐり (川中島) 準備調査の日程、住民参加 のための広告等、賛助会員への通知
	10 月	各委員会の報告、資料収集、俳額解説、第 4 回視察の計画 第 7 回研究会 視察 4 回 視察の句碑、俳額めぐり (松代) 準備調査の日程、住民参加の ための広告等、賛助会員への通知
	11 月	各委員会の報告、資料収集、俳額解説、第 4 回視察の計画 第 8 回研究会 視察 5 回 視察の句碑、俳額めぐり (若穂) 準備調査の日程、住民参加の ための広告等、賛助会員への通知

12月	各委員会の報告、資料収集、俳額解読、発表会の計画 まとめ資料の編集方針と原稿の提出。案内板の具体的計画。	第9回研究会
1月	各委員会の報告、資料収集、俳額解読、発表会の計画 まとめ資料の編集方針と原稿の提出。案内板の具体的計画。	第10回研究会 第11回研究会 第12回研究会
2月	各委員会の報告、資料収集、俳額解読、発表会の計画 研究会誌編集のまとめ。案内板の建立場所等。発表会	第13回研究会 第14回研究会
3月	研究会発表会 開催 会員研究発表、講演、視察、関係団体、住民の参加、 賛助会員のまとめ、 『研究会誌IV』の冊子発刊	第15回研究会
<p>活動することで期待される地域や社会への具体的な効果・成果</p> <p>※「公益性」の視点</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の俳句愛好者が、現在の俳句の創作活動に過去の歴史を知ることは句の創作に影響をあたえる。 2 人々が地域の文化遺産を理解し、先達の業績を知ることは、今後の文化活動に良い結果をもたらす。(姨捨に先祖の句碑があることを研究会から教えていただき、親戚一同視察した。松代岩野、篠ノ井東福寺) 3 神社・寺等の句碑、俳額の文化遺産の棄損に一定の歯止めをかけることができる。 4 句碑、俳額の案内板の建立により具現化されたことから、興味関心が増し、地域に誇りと愛着を生む。(篠ノ井長谷寺の参道にある句碑に案内板を建立したことから、参詣者に喜ばれた) 5 案内板のQRコードからHPへの連携により長野地域だけでなく日本及び海外からの検索が可能になり句碑・俳額の紹介に役立つ。 (真島本道地区の道路の傍らにある句碑が案内板を建立したことにより、HPにしばしばアクセスするようになっている) 6 5地区（篠ノ井自治協、松代自治協、若穂自治協、更北自治協、川中島自治協）の自治協および各公民館と連携し、郷土のお宝を知ってもらう。 7 うずもれた句碑・俳額を世に出すことにより地域の人々や公民館を通じて知ってもらい、区を核にして地域ぐるみの研修会を持つことができる。 (24年度松代岩野地区の句碑・俳額について2年間にわたり調査し、俳額の解読、句碑の案内板が建立したことから、その披露を岩野区として開催していただいた。区、公民館、子供会、俳句同好会) (松代宮崎にある有賀岱栗の句碑について名古屋の子孫が松代に調査に来たが、150年前のことで困っていたところNPO法人の事務所で「川中島平俳諧研究誌」を紹介され調査の目的が果たされたと感謝の電話) 	

<p>活動を継続するための取り組み (資金面、人材等)</p> <p>※「自立性」の視点</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 川中島平俳諧研究会の目的が社会的、文化的に貢献していることを会員自身が自覚することが活動を継続する要因と考えます。3年が経過し会員が活動する中で社会的意義を理解し質的に向上した。 2 資金面について苦労はしているが会員の努力もあり、まとめの本も社会的に理解され購入者が増えてきている。「川中島平俳諧研究Ⅰ」完売、「研究Ⅱ」残少、「研究Ⅲ」今後自己資金として販売。 3 賛助会員を増やすことが資金面にとって必要であるので、促進を図りたい。 4 句碑、俳額めぐりの視察ツアーは資金面でも貢献するのでより一層の工夫をして収入をはかりたい。 5 会員の人材確保は研究会が継続するためにも重要である。会員からアンケートをとりながら、新しい会員を確保することに努力している。賛助会員から会員への移行が最も望ましいとしている。去年は会員4人増、2人休。 6 研究会の目的の一つが俳額の解説であることから、古文書の学習が必要としている。公民館等の古文書講座の人々にも会員の入会を促している。 7 句碑、俳額めぐりの視察ツアーの参加者から賛助会員、会員への加入を働きかける。
<p>翌年度以降の活動内容の概要</p>	<p>翌年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 3年を経過する中で句碑・俳額の調査に時間がかかることが判明した。ひとつの俳額に2か月もかかっていることもある。そのため未解説の句碑・俳額の資料づくりを継続したい。 2 調査をする中で新しい句碑・俳額が判明している。解説等を継続したい。 3 収集した資料のデータベース化も充分でない。HP等の情報の活用もさらに研究したい。 4 研究会の目的である文化遺産の保存管理は地域の人々の理解がないと困難である。そのためにも視察めぐり等のツアーを企画したい。 5 資金面は困難をきたすと考えるが、3年間の経験が解決のヒントを与えてくれる。(平成24年度軽トラ市に参加した収益等) <p>翌々年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 俳諧人名辞典等に記載されていない川中島平俳諧者のデータベースを作成し事典にまとめたい。 2 句碑・俳額のマップづくりはこれからもより精微に作成したい。 3 前年度と同じ活動を継続する。
<p>事業の最終目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 川中島平にある句碑・俳額のすべてが解説でき、案内板が設置され、俳諧に関係した俳人のことからのデータベース化が行われ、まとまった報告書が刊行されること。およびHPに掲載されること。 2 地域の人々により句碑・俳額および俳人の業績が保存管理がされ、一般の人々に文化的遺産として承認されること。

必要経費

(単位 円)

科 目	金 額	
謝金・賃金	30,000	
旅費交通費	58,000	
消耗品費	16,000	
印刷製本費	171,000	
広告宣伝費	0	
通信運搬費	7,000	
使用料	0	
備品購入費	0	
案内板	73,000	
計	A 355,000 円	

自己資金

名 目	金 額	
会費	94,000	
寄附金・協賛金	20,000	
参加者負担金	30,000	
事業収益金	70,000	
合 計	B 214,000 円	

補 助 金 要 望 額 (C)	C = A - B
助割合・限度額 【企画研究部門】 Aの金額以下、ただし 10 万円以内 【実践活動部門】 (スタート枠) A×0.8 の金額以下、ただし 50 万円以内 (ホップ) A×0.8 の金額以下、ただし 100 万円以内 (ステップ) A×0.6 の金額以下、ただし 60 万円以内 (ジャンプ) A×0.4 の金額以下、ただし 40 万円以内	141,000 円 (千円未満切り捨て)